

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

| | | | | | |
|---------|--------------------------------------|-----------|------|---------|-----|
| 機 関 名 | 和光大学 | | | | |
| 取 組 名 称 | 流域主義による地域貢献と環境教育 | | | | |
| 取組学部等 | 全学 | | | | |
| 申 請 区 分 | 教育方法の工夫改善を主とする取組 | | | | |
| 整 理 番 号 | A22154 | 申 請 の 形 態 | 単 独 | 取 組 期 間 | 3 年 |
| 申請の分類 | 体験活動 | 地域活性化 | 環境教育 | | |
| キーワード | 流域, 学生の主体性, 自然と共生する都市文化, 行政界を越えた地域貢献 | | | | |

<選定理由>

本取組は、鶴見川流域に位置する和光大学がこれまで積み重ねてきた大学周辺地域との協力関係をより一層強化し、環境教育と地域貢献を教育に取り組んでいこうとするプログラムであり、高く評価できる。大学が、その周辺社会と協力しながら、学術的な立場から地域貢献を行い、また地域が抱える環境問題などを学生と地域住民との関係の中で考えていくということは、今後の教育モデルとして大きな意義がある。

ただし、このようなプログラムは、学部教育の中心となるカリキュラムをいかに効果的なものにしていくかという側面的なものであり、学部教育との関連性を保つことが最も大切である。このプログラムだけが一人歩きし、大学本来の教育と隔絶することのないよう常に留意しつつ、より一層の教育の実績をあげるよう期待する。

取組の概要【1ページ以内】

本取組は、流域という視点から鶴見川流域の環境保全活動と地域社会への貢献を通して、新たな地域社会を作り出す能力を持った人材を育成する実践的な環境教育の試みである。

和光大学が位置する鶴見川流域は市街化されていると同時に水辺を中心に多くの貴重な動植物が存在している領域で、都市生活と自然環境の共生という課題において重要な地域である。鶴見川流域は川崎市、町田市、横浜市にまたがっており、行政界を越えた地域貢献活動が必要な地域でもある。伝統的に学生の主体性を重んじてきた和光大学では、従来より鶴見川流域（特に川崎市麻生区岡上地域）の環境保全活動において、地域住民、自治体、国交省などと連携して、学生を中心として様々な活動に取り組んできた。こうした関係は環境保全のみに終わるものではなく、総合的な社会関係をもたらし、地域の社会関係資本ともなっている。

本取組は、こうした実績に基づき、大学カリキュラム（Formal-Education）と学生の自主活動（Non-Formal Education）を有機的に組み合わせることによって、学生の自主性、社会性、環境意識を育み、「自然と共生する都市文化」を担うアクティブな市民を育成しようとするものである。具体的には、一方の柱として「地域・流域プログラム」という学部横断的カリキュラムを設定して、都市型環境保全の理論的・実践的スキルを身につける。またもう一方の柱として「地域・流域共生センター」を設立し、地域・流域におけるネットワークを発展・維持させる体制を構築し、地域貢献とともに、本学学生の教育資源として持続可能にする基盤作りを目指すものである。

取組の構成図

